

(様式第1号)

自己評価及び外部評価結果票

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4171300082		
法人名	共生の里生活支援センター株式会社		
事業所名	グループホーム共生の里小城		
所在地	佐賀県小城市三日月町道辺838-1		
自己評価作成日	令和6年6月5日	評価結果市町村受理日	

※事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度のホームページで閲覧してください。

基本情報リンク先URL	www.kaigokensaku.mhlw.go.jp
-------------	--

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	社会福祉法人 佐賀県社会福祉協議会		
所在地	佐賀県佐賀市天神一丁目4番15号		
訪問調査日	令和7年7月4日	外部評価確定日	令和7年8月19日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

<p>その人らしく穏やかに過ごして頂ける様にパーソンセンタードケアを核とし、『想いを汲み一つ一つの想いの実現』を自己実現と位置づけ支援して、決まり事をつくらず個々の利用者に合わせて対応をし、のんびりと過ごして頂ける様な環境づくりに努める。</p>

【外部評価で確認した事業所の優れている点・工夫点(評価機関記入)】

<p>ホームの周囲は田園が広がり民家も多くその一角に事業所がある。当ホームは創立24年。1階はグループホーム、2階はデイサービス、少し離れた場所にもグループホームがある。サテライト施設として本部と連携し機能している。駐車場の一角に犬小屋、ニワトリ小屋があり、周りには季節の花が見られる。昔の面影が残り懐かしい感じがする環境である。代表者はサラリーマン時代から福祉に力を入れ、その人らしい生活を生き生きと過ごせるような環境になるよう教育、指導に熱心である。住まいもホーム内にあり夜間や緊急時には駆けつけられ、職員は心強い。管理者は「基本に沿って利用者に接する。家庭の延長、家と思って過ごしてもらいたい。」を大事している。管理者はじめ永年勤務の職員もおり、職員同士のコミュニケーションも良く働き易い事業所である。</p>
--

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価 (事業所記入欄)	外部評価 (評価機関記入欄)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	理念を理解して頂く為に、朝礼時等に疑問を持たれた時には、ミーティングやカンファレンスを通じて意見交換し、共有を図っている。	理念は開設時に代表者と職員で作られたものである。系列事業所と同じで変更は無い。利用者に接する際には人権、尊厳を大切に笑顔が絶えないよう気配りをしている。理念は休憩室に掲示し、ミーティングの際に確認され理解されている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一人として日常的に交流している	地域の行事への参加は、職員のみ参加となっているが以前は、おこもりにも利用者に参加を頂いていた。	自治会に加入している。月番の際には月2回市報等の配布をし交流はある。回覧板で町内の情報は得られ、川掃除にも参加している。自治会総会や町内の多くの会に参加し情報交換され、運営に活かされる。町内の方から花や野菜の差し入れもある。ホームは災害時の避難場所ともなっている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	当該事業所主催の秋祭りにも地域の方々に参加して頂き交流に努めていた。避難訓練にも参加して頂いていた。その他にもホームが地域の避難所に位置付けされているので、備蓄品も準備している。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	令和6年度当初は文書による報告中心であったが、令和6年12月より対面式での開催を行い、推進会議の参加者様より意見や情報を得て取り組んでいる。	会議は2ヶ月に1回他の事業所と合同で行っている。会場は町内の公民館を使用。区長さんの他にも市民代表も参加されている。参加者から加算について、避難訓練、設備についての意見があり詳しく説明されている。毎回近況報告、利用者、イベントの状況が報告されている。	

自己	外部	項目	自己評価 (事業所記入欄)	外部評価 (評価機関記入欄)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	コロナ禍とスタッフ減少で思うように研修に参加できずにいるが、求人にも努め、少なくとも小城市の高齢障がい支援課や地域包括支援センターの研修だけでも参加させたい。	生活保護の方の利用について地域包括支援センターで対応してもらった。行政から研修の案内があるがスタッフ不足の為参加出来ない。今後は参加できるように努めたい。空き情報は行政とカナミックネットワーク(医療介護連携システム)に提供している。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	四点柵や点滴の抜去等で止むを得ず身体拘束を必要とする場合は、身体拘束状態より早く開放できるように努めている。又、精神面に於いてもご本人の想いを汲むように努め、すべてに於いて先ずは、反論する事無く受け止めてから、対応する様に心がけている。ご本人の思いを受容し、「その人らしく」を受け止める事が尊敬する事と教育指導監督している。当該事業所に於いては「身体拘束」を「心体拘束」と考えている。	定期的にグループ内、外部の研修が行われている。職員の気配りにより言葉遣いは利用者に合わせて思いを受け止め傾聴する事を大事にしている。スピーチロックの弊害も理解している。玄関の施錠は無い。身体拘束は心体拘束であると心得ている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	精神的抑圧を無くし開放へと導き、虐待へと進まない様な状況をスタッフ同士が観察し注意し合える様に勤めていて、人権尊厳について理念にも「あるがまま」を礎とし利用者の自由権を尊重している。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	成年後見制度については大卒の周知はできていて、過去には3名利用されている。		

自己	外部	項目	自己評価 (事業所記入欄)	外部評価 (評価機関記入欄)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時に説明しているが、ご家族にとっては、何を聞いて良いのかが解らない事もあると思うので、ゆっくりと説明し質問が出易い様な環境づくりに努め、間の取り方にも注意し納得頂いて締結して貰っている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	入居時や家族面会時に、会話の中でケアに対する説明をして要望など聞いている。コロナ禍以前は面会も、制限を設けた時からすると面会も多くなり意見交換の機会も増えてきた。しかしながら、家族会を実施する迄には至らず、今後の課題としている。	家族の意見は面会時、電話、支払いの来所時に聞く事が出来ている。感染対策継続中で面会についての意見が多い。面会は感染対策して2~3名で15分程度居室で出来るようになった。退所の事や緊急時の対応についても相談があり説明されている。現在家族会を中止しているので再開を検討中である。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	社員は勿論、特に新入社員に於いては、入社後落ち着いた頃を見計らい、会食を取りながら和やかな雰囲気のもと個人面談を行っている。朝礼時の引継ぎ後のミーティングに於いて、意見具申を積極的に得る事迄には至っていないが、質問を投げかけたりして意見や提案を吸い上げて反映に努めている。	グループ内で職員の異動や入れ替えはある。永年在職や経験豊富な職員が多い。ミーティングの際に職員に要望を問いかけ、働き方について、労働時間、やりがい等意見は出し易い。職員の意見は管理者から代表者に伝達され出来る事から改善されている。職員の意見によりミキサーやホットプレートの購入があった。職員間のコミュニケーションも良く働き易いと言う。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	個々数年取り組んでいる事は、勤務表作成にあたり【働き方改革勤務キャパ及び希望休】と題して勤務表に反映し『少なく働いて如何に多く給与を獲得するか』をテーマに取り組んで労働時間の縮小及び遣り甲斐が持てる様に整備している。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	人員不足と感染予防の為に外部研修はできなかったがeラーニングの認知症研修を無資格者には受けてもらうようにしている。社内研修にて人権尊厳、基礎研修、身体拘束(心体拘束)、感染予防等を行っていきたい。		

自己	外部	項目	自己評価 (事業所記入欄)	外部評価 (評価機関記入欄)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	新型コロナが流行後は小城市で実施されている研修も少なくなってきて数回の参加に止まっている。インターネットを通じたユーチューブ等の研修に取り組んでいるが、今後更に増やしていきたい。		
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	ご本人を全人的に捉え、話し易い環境づくりに努め、声掛けの時のトーンを下げ、表出しない心の苦しみも汲みとり、言葉にされる時は、時間が許す限り傾聴に努める。又入居時のサマリー等の情報を単に鵜呑みにせず、生活モデルで再アセスメントを実施する。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	ご家族の困りごとについてもご本人と同じ様に単に色々聞く事に徹せず、間を取り声のトーンを下げ、苦しみを汲み言葉にされるのを待ち傾聴に努める。特にご家族に関しては、今後の緊急時対応や延命治療、費用負担についても鑑み少しでも安心して頂ける様に心がけている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	サービス導入段階に於いて、ご本人もご家族も不安が一杯で、不安から混乱へ、混乱から恐怖にならない様に、一定の距離を置きながらも家族一員として対応させて貰う。特に入居暫くはご家族にご本人の状況を詳細に報告する。		

自己	外部	項目	自己評価 (事業所記入欄)	外部評価 (評価機関記入欄)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	入居者様と顔馴染みの関係を築く為に、入社の三原則(目線を合わせる・トーンを下げる・ゆっくり行動する。)を礎として対応し、決して上から目線にならない様に、一緒に暮らす家族の様に支援する。「その人らしさ」を担保する事を『尊厳』と捉え、「自人らしさ」を担保する事を『人権』と捉える。		
19		○本人と共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	ご家族と信頼関係を築く為に、入社の三原則(目線を合わせる・トーンを下げる・ゆっくり行動する。)を礎とした対応をし、決して上から目線にならない様に、スタッフが家族一員である様に支援し「そのご家族らしさ」の尊厳を保つ様にしている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	新型コロナウイルス感染症は減少しているため、親族の強い要望があれば、結婚式や供養等にも参加して頂いている。感染状況や時間なども鑑み、戻られた後は暫く自室にて過ごして頂く事等も、カンファレンスで決めている。	面会の制限も落ち着き、家族、友人の面会が多くなった。2階がデイサービスであるがまだ交流は無い。利用者や家族の要望で結婚式や法事にも参加されている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	精神的に孤立にならない様に言葉かけし、リビングにて他入居者の方とゆったりした雰囲気でごせる様に音楽をかけたり、食事の時にはBGMをかけている。トラブルがあれば仲を取りもち、趣味や興味を持たれる話を回想法を用いた環境づくり、ご自分らしさの発掘に努めている。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	当該事業所は、当該地区で一番ターミナルケアが多いと言われ、死亡退去が多く、ご家族との関係が深いと思いますが、退去後のご家族のフォローをし、相談支援に努めているかと言えばできていない。		

自己	外部	項目	自己評価 (事業所記入欄)	外部評価 (評価機関記入欄)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	バイステック7原則の『個別性』を重視し、一人ひとりが違って当たり前と言う事を理解し全人的に捉え、我がままと見えてもその望みや想いが「その人らしさ」であり、それを汲み取らずにして何をパーソンセンタードケアと言えるのかを熟知し、その人らしさの追求に努めている。	利用者の思いは日々の関わりの中でつぶやかれ、それを聞き取り、そのままの言葉で記録している。日頃の動作からも思いを知ることができ、その様子は記録に残し職員で共有し介護計画に活かしている。意思疎通が難しい方には傾聴を大切に心掛けている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	ご本人やご家族に生活歴等を聞き、把握し、ご本人が思われている時代や年齢を汲み取り、その時代の言葉や趣を考慮し、回想して頂く。ご本人の世界を受け入れ共感に努める。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	一人ひとりの思いや考え方、一人として同じ心身状態ではない事を理解して、できる事を中心に想いや嗜好等を活かせる様にお誘いしている。できない事であっても「やらせ」にならない様に、押し付けにならない様に心がけている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	ご家族・ご本人の希望を元に、想いを少しでも遂げる事ができる様に、介護計画作成時にはスタッフを含めたサービス会議にて検討作成している。感染防止対策以前の様にご家族やご本人等が集合したサービス会議はできていない。	月1回の請求書を発送する際に近況報告や家族の意見や要望のお願いをしている。面会時や電話でも聞き、家族からは利用者の運動の希望などがある。家族の思いや日々の記録を参考に計画を作成している。様子の変化があった際には計画を見直し家族に報告され了解を得ている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	状態変化の記録は日誌に記録しているし、カンファレンスやミーティングにて情報を共有し、対応について検討し見直しを行っている。しかし、記録に漏れがないとは言えない。		

自己	外部	項目	自己評価 (事業所記入欄)	外部評価 (評価機関記入欄)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	突発的なニーズに対してもご家族に相談させて頂き、嗜好品の購入や対応について協力頂き、近年においては、感染防止の為に理髪店に行く事ができず、施設長が休みの時にボランティアでカットさせて頂いていました。感染リスクの低減により7年4月より理容師にお願いしております。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	以前はお宮境内にておやつを食べたり、尾籠に参加したりしていたが、最近の利用者の重度化等により、車椅子で庭の花等を見に行ったりする程度しか実現していない。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診診断 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるよう支援している	入居者は全員ご家族の理解と協力で、在宅診療を主治医として頂いている。24時間医療連携が取れている為、対応の相談、処置についての支持を得たり、緊急時には看護師の訪問や医師の訪問などの対応にも応じて貰っております。又、特変時には、その都度ご家族に連絡を取る事しております。	利用者全員が協力医での診療である。2週間に1回往診日がある。他科の診療は家族であるがやむを得ず職員が同行し病院で家族と待ち合わせる事もある。緊急時には看護師と協力医には24時間連携出来、すぐに対応できる。	
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるよう支援している	日々の健康観察で、異変を感じたら直ぐに、看護師又は在宅診療看護師・医師に連絡を取り相談している。重度化しない様にミーティングやカンファレンスを実施している。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	最近のご家族以外にはプライバシーの関係で情報交換に困難を期している。その時には、ご家族に一報入れて病院に情報提供頂く様にしている。入院時は看護師が同行し情報提供し、退院時のサービス会議には参加させて頂いている。		

自己	外部	項目	自己評価 (事業所記入欄)	外部評価 (評価機関記入欄)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	重度化や終末期に伴い、できる限り在宅診療への契約を求めている。ご家族と協議の上、在宅診療と共に最善なケアが出来る様に取り組んでいる。入居時には延命治療や看取りの希望等も伺い、看取り時には改めて医師にサービス会議を依頼し、ご家族にご本人の状態や緊急時の処置について説明し、看取りの希望について確認を取って頂く。又、終末期には医師より家族に直接連絡を取って頂いている。	入居時に説明を行い、同意を得ている。利用者や家族が望む看取りが出来るよう共有し、事業所で出来る限り支援している。これまでに看取りの経験はあり、体制も出来ている。その状況になった時には家族も看取りが出来るように宿泊等の配慮もしている。訪問看護師がエンゼルケアを行いお見送りされる。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	まずは、当該事業所の看護師と共に在宅診療への報告連絡を速やかに取り、スタッフがパニック状態に陥らない様に、日頃より介護技術の一番は「他人に協力を得る事」と指導している。	/	
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	夜間時火災を想定してグループホームを一階に設置している。火災避難訓練は年に2回夜間想定で行っている。以前は地域住民の協力を得て訓練を行っていたが、現在は地域との共同訓練はできていない。又今後は地震、水害等の災害訓練にも取り組んでいきたい。	3月、9月に消防署立ち合いで夜間想定を含め消防訓練が実施されている。利用者の参加はあるが住民の参加はない。訓練後消防署より「職員は慌てない、怪我をしない様に、近所の人は力になる」等の説明がある。事業所は地域の避難場所となっており、備蓄もある。今後訓練の際には地域住民の参加が課題であり検討中である。	
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	一人ひとりの個性を理解し、全人的に受容する事が肝要であり、スタッフから見て可笑しい行為でも、社会通念上問題だと思われることでも、一人ひとりの個性として捉えて個性を尊重している。自分(スタッフ)が、言われて嫌な事は言わず、自分がされて嫌な事はしない様にし、パーソンセンタードケアに徹した対応に努めている。	接遇研修が行われている。利用者への声掛けには声のトーン、口調、排泄、トイレ、風呂の際等の配慮した言葉に気をつけている。気になる職員には管理者から指導されている。個人情報の管理、保管についても職員は理解している。	

自己	外部	項目	自己評価 (事業所記入欄)	外部評価 (評価機関記入欄)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	利用者の希望の表出や自己決定の支援を自立では無く、自律として当該事業所は教育に努めている。過度な言葉かけを安易にしては混乱に導かないとも限らず、間を取りながら感情表出ができる環境づくりに配慮している。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	どうしてもスタッフ主導になりやすいが、強制することなく、けって説明説得や指示命令と受け取られる事の無いように努めている。その為には「話す」ではなく「語る」にし、想いや行動を尊重し受容している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	認知症の重度化で中々おしゃれや身だしなみについて想いを汲む事は段々難しいと思ってきたのは事実であるが、想いを汲み取れない時には、自分の親だと思って心遣いをする様にしている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	現在は、利用者は高齢化と共に重度化が進んでおり、以前の様におかずの継ぎ分けやテーブル拭き、茶碗洗いなど、元気な方が居られた時のようにはできなくなった。現在は、食事に注視して頂く為に食事時はBGMを流して雰囲気づくりに努め、嗜好品の梅干しや黄な粉ご飯等を提供したり、おやつには色彩豊かにチョコレートスプレー等で美しく飾り楽しんで貰っている。	炊飯のみ事業所で行われる。食材は外注である。以前はお手伝い出来ていた方もいたが、高齢化が進み困難になった。職員も利用者のテーブルに着き、声掛け、介助しながら同じ食事を食べ、楽しい時間である。食べ易い形態や利用者の好物の梅や黄な粉などにも対応し、食欲をそそり、お替りをされる方もある。食事制限で持病が改善された方もある。行事食の対応もされている。	

自己	外部	項目	自己評価 (事業所記入欄)	外部評価 (評価機関記入欄)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	管理栄養士の監修の下での食事を採用し、お替りを求められる方やご飯を少なく求められる方や、食事が入らない場合には高カロリーゼリーを付けたり、水分量が足りない方には、エンシュアリキッド(栄養剤)や心太等や嗜好品を提供。脱水にならない様に何時でもちょこちょこ飲みができるよう常時テーブルに水分を置き、声掛けに努めている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	口腔内の衛生保持に努めないと肺炎の原因となる事を認識して、声掛けや介助に力を入れているが、完全とは言えない。歯磨きは生活習慣が大きく、一日朝に一回とされている方も居られるが、できる限り少なくとも夕食後には歯磨きを勧めている。		
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	例え、入居時、急変時や夜間はオムツ使用であっても、日中は紙パンツや布ショーツで対応できないかを検討し、カンファレンスを行い排泄の自立支援に努めている。また、個々の状態に応じて、居室内にポータブルトイレがあっても工夫を重ねできるだけトイレでの自立排泄を促している。	排泄チェック表で利用者の様子を見ながら声掛けされている。自立に向け、なるべくトイレに立つように支援され、改善された方もある。夜間はポータブルトイレ、センサーマットを使用し物音で様子を伺っている。衣類の上げ下げは出来る方もあり、職員は身繕いを手伝っている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	ご飯等にファイバーのみに留めず、黄な粉ご飯やココア等の食物繊維の摂取に努め、水分が十分に摂れる様に10時・15時にはお茶、お風呂上りに冷ました野菜ジュース、カルピス等を提供したり、便秘の方には特に起床時にできるだけ冷たい牛乳を摂取して貰っている。		

自己	外部	項目	自己評価 (事業所記入欄)	外部評価 (評価機関記入欄)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている	便失禁等で清拭では対応が難しい時は、できる限り入浴を支援している。また、毎日入浴できるように準備しているので、その日入浴を拒まれる方や気分が優れない方については、無理強いせず、時間をずらし改めて声掛けしたり、翌日にずらすなどの支援をしている。勘違いされ「今日風呂の日」と言われてもできる限り応じる様になっている。	週3回の入浴支援である。気分、体調に合わせて入浴される。同性介助で対応し、順番は決めていないが、男性の利用者が先に入浴され、その時の気分に沿っている。入浴出来ない時は清拭、シャワー、足浴などで対応される。会話が弾む時間でもある。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	入眠時間は生活習慣で大きく差があることを理解し、無理やり寝かせる様な事が無い様にしている。利用者によってはリビングにてウトウトされたり、椅子に座った様子から疲れが見られた時などに居室のベッドに誘導し休んで頂く様にしている。夜遅く迄テレビを視聴される方も居られる。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	服薬状況確認の記録をし、副作用等を理解する為に処方箋を読んで貰い、薬の変更時は看護師の下で服薬の指示に従っている。特に頓服は看護師に報告し、許可を得てから服薬してもらう事としている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	個別毎のレクリエーションをできるだけ取り入れ、塗り絵や折り紙・音楽鑑賞・テレビ観賞等の支援をしている。また、タオルや洗濯物たたみ、干し等できる活動を行い生活レクリエーションとしている。無理強いせず参加に導ける様に努めている。参加される事により役割を感じて頂ける様に回想法を用い、昔のおやつ作りなども行っている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	車での花見等は年に2、3回くらいしか実施できていない。しかし、近くの花畑等には車椅子等利用し散歩に行っているが、回数はけっして多くはない。高齢化に伴い重度化が進み全員の参加ができていない。春と秋の晴れた日には、少しでも外でお茶やおやつが摂れる様に準備をしている。	利用者の高齢化が進み、思うようには外出出来ていない。天気の良い日は敷地内でおやつを食べたり、犬、ニワトリに餌を与えたり、段ボールで作られた大きなライオンやキリンの置物、季節の花を眺める事が出来、日光浴や気分転換を楽しまれている。	

自己	外部	項目	自己評価 (事業所記入欄)	外部評価 (評価機関記入欄)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	個人で管理能力がある方は少額の金銭を所持出来るように支援したいが、現在は所持されている方はいない。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	特に入居時や逆に慣れられて落ち着かれてからの帰宅願望等がある場合に、ご家族の方に事情を話して欲しいし、電話をかけたり、かけて貰ったりしている。高齢化と重度化に伴い、最近、手紙やはがきのやり取りが少ない為、ご家族へ請求書送付時に返信用封筒に切手を貼り同封したところ、数名のご家族より手紙を頂くことができた。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共用の空間はリビングと縁側であるが、外の景色が見える様にし、冬は日向ぼっこ等を楽しんで頂いている。又、部屋の温度については利用者の体感温度によって調整する様にしている。これもパーソンセンタードケアの一つと教育している。又、耳障りにならない様な音楽のBGMに切り替え、穏やかに過ごせる様な環境作りに努めている。	リビングは広くテーブルでぬり絵をしたり、料理の本、雑誌を見る等思い思いに好きな事をして過ごされている。南側はガラス窓で季節の移り変わりを眺められる。ソファが置かれ窓越しに日光浴が出来る。戸を開けるとウサギ小屋があり利用者は餌やりを楽しまれる。床暖房になっている。掃除はリビング、居室共職員で行っている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	共用の空間外を眺めたりゆっくり休息し寛げる環境にしている。利用者間の関係や混乱によってテーブル席や向き又は配列等の変更にも努めている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	好みのものを置けるように居室にテーブルを置いたり、馴染みのものを持ち込める様に呼び掛けている。時代背景もあるのか、最近は鏡台等の持ち込みは少なくなりました。	居室には床頭台、整理タンス、椅子が準備され、洗面所は冬場はお湯の対応が出来る。居室への持ち込みは自由であるが多くの持ち込みはなく、すっきりしている。居室でテレビを見ながらのんびり過ごされている方もある。利用者の思いに添い、過し易く配置されている。整理整頓もされている。衣類の入れ替えは職員で行われている。	

自己	外部	項目	自己評価 (事業所記入欄)	外部評価 (評価機関記入欄)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	必要に応じ個人の能力に応じた環境作りを行い、自立した生活が安全におくれる様に工夫している。「できること」や「わかること」を判断し、居室内にポータブルトイレを置いたり、テレビやラジオ等設置し自分で好きな時間に見ることができるようにしている。		

V. サービスの成果に関する項目(目標指標項目)アウトカム項目))(事業所記入)
 ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓ 該当するものに○印をつけてください	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。 (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の
			2. 利用者の2/3くらいの
			3. 利用者の1/3くらいの
			4. ほとんど掴んでいない
57	利用者と職員が一緒にゆったりと過ごす場面がある。 (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある
			2. 数日に1回程度ある
			3. たまにある
			4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている。 (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が
			2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている。 (参考項目:36,37)		1. ほぼ全ての利用者が
		○	2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている。 (参考項目:49)		1. ほぼ全ての利用者が
			2. 利用者の2/3くらいが
		○	3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている。 (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が
			2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない

項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓ 該当するものに○印をつけてください	
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている。 (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が
			2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています。 (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と
			2. 家族の2/3くらいと
			3. 家族の1/3くらいと
			4. ほとんどできていない
64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている。 (参考項目:2,20)		1. ほぼ毎日のように
			2. 数日に1回程度ある
			3. たまに
		○	4. ほとんどない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている。 (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている
			2. 少しずつ増えている
			3. あまり増えていない
			4. 全くいない
66	職員は、生き生きと働いている。 (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が
			2. 職員の2/3くらいが
			3. 職員の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う。	○	1. ほぼ全ての利用者が
			2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う。	○	1. ほぼ全ての家族等が
			2. 家族等の2/3くらいが
			3. 家族等の1/3くらいが
			4. ほとんどいない